

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております

2802号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>



アジサイ

も く じ	
政 策	鳥獣被害防止特措法の一部を改正する法律について 農林水産省生産局農産部農業環境対策課鳥獣災害対策室：(2)
フオーラム	滋賀県豊郷町におけるアニメコンテンツを活かしたまちおこしⅡ滋賀県豊郷町：(5)
情 報	町村Navi：(10)
随 想	わが町 田尻町：(12)
	大阪府田尻町長 原 明美：(12)

コラム

庶民の願いと政治

東京大学名誉教授 大森 彌

無病息災・百事大吉は、日常生活での庶民のいつわらざる願いである。もちろん、そうなることは違ふし、そうならないことの方が多い。だから、いっそう、平穩無事・万事順調であってほしいと思うのである。

無病というわけにはいかず、大抵の人は病を得て苦しむし、息災というわけにはいかず、事故・災難がいつ降りかからないとも限らない。不慮の事故にあうかもしれない。人生、すべての目論見が、いつもうまく成就するとは限らない。運が向いているときも、ツキがない時もある。それは、賭け事をしなくとも、普通の暮らしでも実感できる。吉を願って凶と出ることは稀でない。ツキすぎると、「大吉は凶に還る」と不安になったりする。人事を尽くしても万事休すということもある。だから、健康管理も防災対策も怠ってはならず、じっと我慢が世過ぎの知恵になる。神社仏閣では手を合わせて現世御利益を祈る。堅実と慎ましきこそ庶民の暮らしの真骨頂である。

この庶民感覚からは、「政治家」の言動はわかりにくい。自己顕示欲と統制欲が強く、自分たちの言動が庶民にとって「息災」でも「大吉」でもないことには気がついてないらしい。なにしろ、天下国家のために、世のため人のために、嫌われ仕事に汗をかいていると自負しているからである。せめても、政治家たちは庶民から好かれも尊敬もされていないことに、つつつつ気づいていることである。

政権を運営している大政党は政界遊泳に汲々とし、選挙での「大吉」が「凶」に還りつつあることに無頓着のように見える。その打倒で小党を立ち上げる野心家たちは血気盛ん過ぎて信用できそうにない。どうも慎ましく暮らす庶民にとっては「災難」をもたらすように見える。「政治」は、日々の暮らしの平穩無事を願っている庶民にとっては「おはらい」でもしたくなる「疫病神」にみえてくる。それでも、「あなたが政治に無関心でも、政治はあなたを放さない」というのが政治学の格言である。慎ましい庶民の本当の怖さを政治家たちに知らせる以外にないかもしれない。庶民の一票の威力を、である。

●写真募集●

表紙に掲載する写真を募集しています。採用者には、粗品を差し上げます。写真には撮影者の住所、氏名及び撮影場所・日時を明記して下さい。なお、採否は当方に一任願います。送り先：全国町村会・広報部

政策解説

鳥獣被害防止特措法の一部を
改正する法律について

農林水産省生産局農産部農業環境対策課鳥獣災害対策室

1 鳥獣被害の現状

近年、イノシシ、シカ、サル等の野生鳥獣の生息分布域の拡大、農山漁村における過疎化や高齢化の進展等に伴い、鳥獣による農林水産業等に係る被害は深刻化している。鳥獣による農作物の被害額は年間2000億円を上回り、平成22年度の被害額は約239億円となっている。また、収穫を目前にした被害は営農意欲を失わせるとともに、新たな耕作放棄地の発生をもたらし、これが更なる被害を招く悪循環を生じさせており、直接的に被害額として数字に現れる以上の影響を及ぼしているものと考えられる。

また、シカ、クマ等による森林被害面積が近年5〜7千haで推移しているほか、トドによる漁業被害が毎年10億円以上発生し、カワウによるアユ等の被害も深刻である。

これに加え、鳥獣による人身被害についても深刻化し、都道府県から環境省への被害報告によると、クマによる被害者数は年間約150人（平成22年度）であるほか、鳥獣の道路への出没に起因する交通事故も発生している。

2 鳥獣被害防止特措法の一部を改正する法律の概要

鳥獣による被害防止のための施策を総合的かつ効果的に推進するため、平成19年12月、鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律（鳥獣被害防止特措法）が制定され、平成20年2月に施行された。

この法律は、現場に最も近い行政機関である市町村が被害防止対策の中心となって、主体的に対策に取り組めるよう、農林水産大臣が基本指針を定め、この基本指針に即して市町村が被害防止計画を作成するとともに、被害防止計画を作成した市町村に対して、国等が財政支援をはじめとする各種支援措置を講ずるものとなっている。

本法の施行を受け、本年2月までに、鳥獣被害が認められる市町村（約1,500）の約8割に当たる1,991市町村で被害防止計画が作成されている。

一方、鳥獣被害が依然として深刻であることに加え、鳥獣の捕獲を担う狩猟者数は約18万6千人（平成21年度）と30年前の約4割にまで減少するとともに、60歳以上の割合が全体の約6割を占めており高齢化が進

展している。これらの現状に鑑み、被害防止対策の効果的な推進に資するため、本年3月に、議員立法により、鳥獣被害防止特措法の一部を改正する法律が可決・成立し、3月31日に公布されたところである。

一部改正の概要は次のとおりである。

①住民に被害が生ずるおそれがある場合等の対処

市町村の被害防止計画に定める事項として、対象鳥獣による住民の生命等に係る被害が生じるおそれがある場合等の対処に関する事項を加える。

②市町村長による都道府県知事への要請

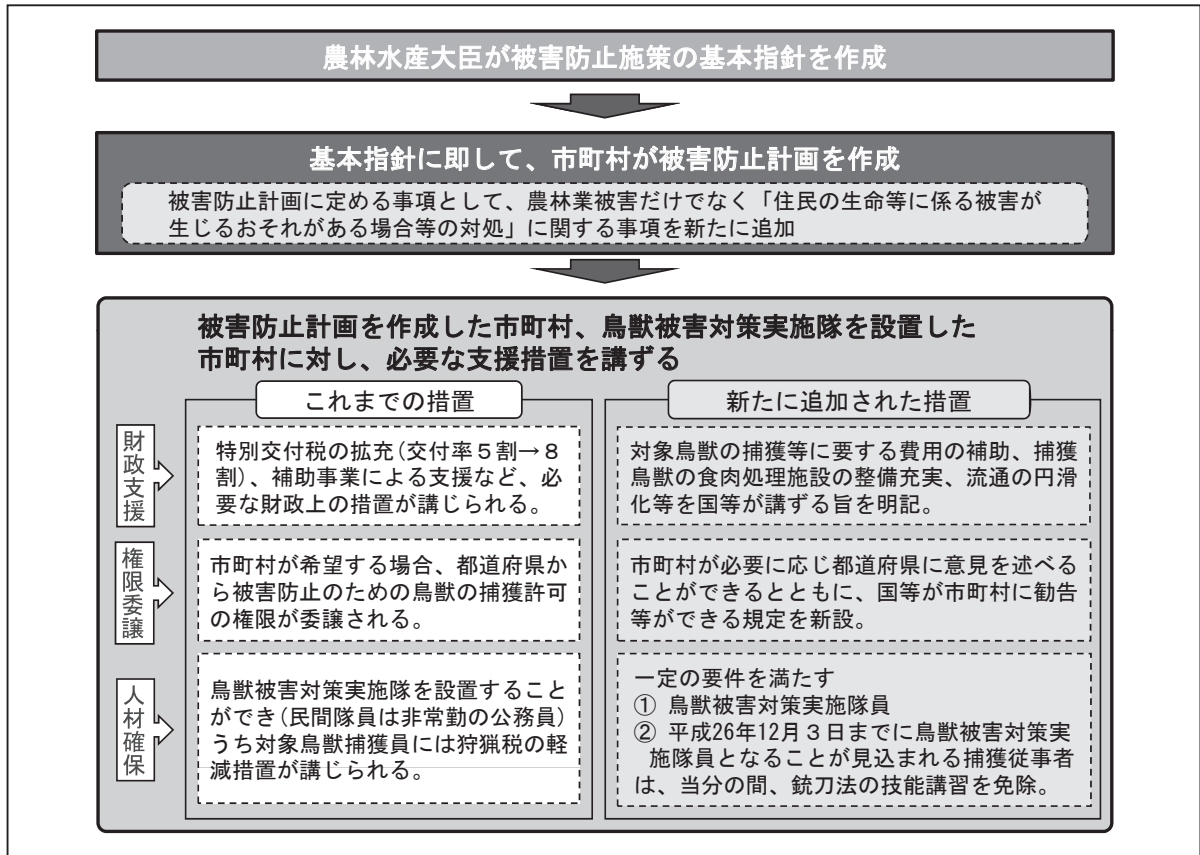
市町村長は、市町村が行う被害防止施策のみによっては対象鳥獣による被害を十分に防止することが困難であると認めるときは、都道府県知事に対して必要な措置を講ずるよう要請することができる。とともに、要請を受けた都道府県知事は、必要な調査を行い、特定鳥獣保護管理計画の作成等の措置を講ずるよう努める。

③財政上の措置

国等が講ずる財政上の措置として、対象鳥獣の捕獲をはじめとする被害防止施策の実施に要する

政 策

参考 1 鳥獣被害防止特措法の概要



費用に対する補助を明記する。

④捕獲した鳥獣の食品としての利用等

国等が講ずる措置として、捕獲した鳥獣の食品としての利用等を図るため必要な施設の整備充実、技術の普及、加工品の流通の円滑化を明記する。

⑤捕獲等に関わる人材の確保に資するための措置

国等は、狩猟免許及び猟銃所持許可を受けようとする者の利用に係る措置を講ずるよう努めるとともに、捕獲報償金の交付や射撃場の整備等の措置を講ずるよう努める。

⑥技能講習に係る規定の適用除外

一定の要件を満たす鳥獣被害対策実施隊員は当分の間、それ以外の被害防止計画に基づく対象鳥獣の捕獲等に従事する一定の要件を満たす者は平成26年12月3日までの間に、銃砲刀剣類所持等取締法(銃刀法)の猟銃所持許可の更新等の申請をした場合には、同法の技能講習に係る規定の適用を除外する。

この改正法は、公布の日(平成24年3月31日)から起算して3ヵ月(ただし、⑥については6ヵ月)を超えない範囲内において政令で定める日

から施行することとされている。

このほか、クマ等が住宅街に現れ、人の生命・身体に危険が生じた場合に、警察官職務執行法第4条第1項を根拠として警察官がハンターに対し駆除を命じる場合の取扱いについて、警察庁・環境省から通達文書が本年4月12日付けで発出されたところである。

3 鳥獣被害防止総合対策

鳥獣による被害を防止するためには、鳥獣の捕獲や追い払いに加えて、鳥獣の侵入を防ぐための柵の設置、人と鳥獣が共生できる生息環境づくりなどを組み合わせ、地域ぐるみの面的な対策として総合的に取り組むことが必要である。

このため、農林水産省では、鳥獣被害防止総合対策交付金等により、地域が主体となって行われる鳥獣被害防止の取組を総合的に支援している。

24年度においても、引き続き地域の取組を支援するよう所要の予算を措置している。(24年度予算・鳥獣被害防止総合対策交付金(95億円)、東日本大震災農業生産対策交付金(29億円の内数))

■参考2 鳥獣被害対策実施隊への優遇措置

① 狩猟税の軽減

実施隊員のうち、主として捕獲に従事することが見込まれる者（対象鳥獣捕獲員）は、狩猟税が通常の2分の1に軽減される。

② 公務災害の適用

実施隊員のうち、民間の隊員については非常勤の公務員となり、被害対策上の災害に対する補償を受けることができる。

③ 活動経費に対する特別交付税措置

市町村が負担する実施隊の活動に係る経費については、その8割が特別交付税措置される。

④ ライフル銃の所持許可の特例

実施隊員であれば、銃刀法に規定する「事業に対する被害を防止するためライフル銃による獣類の捕獲を必要とする者」に該当し、散弾銃の所持経験が10年未満でも、ライフル銃の所持許可を受けることができる。

⑤ 技能講習の免除

一定の要件を満たす実施隊員については、銃刀法に基づく猟銃所持許可の更新等の申請に際して、技能講習が免除される。（改正法の施行後に適用）

4 鳥獣被害対策実施隊を中心とした体制整備の推進

被害防止対策をより効果的かつ効率的に実施するためには、市町村が鳥獣被害対策実施隊を設置し、実施隊員により活発かつ持続的な被害防止活動が展開されることが重要である。このため、農林水産省では、24年度予算により実施隊への重点支援を行うとともに、市町村等の要請に応じて出前説明会等を実施し、先行事例や取組上の工夫等について周知を図っている。

この実施隊の仕組みは、当初の立法過程において、消防団制度を参考に規定されたものであり、民間の実施隊員は非常勤の公務員となり、活動に対する報酬が支給されるとともに、被害対策上の災害に対する補償措置が講じられる。

また、報酬等を含む実施隊の活動経費は、市町村負担の8割が特別交付税措置されるとともに、実施隊員のうち主として捕獲に従事することが見込まれる者（対象鳥獣捕獲員）は、狩猟税が通常の1/2に軽減される等の優遇措置が講じられる。このほか、一定の要件を満たす実施隊員については、今般の法改正により、銃刀法の技能講習の適用が除外され

ることとなったところである。

市町村が実施隊を設置するためには、①民間の実施隊員の報酬や補償措置を条例で定めること、②市町村長が実施隊員を指名又は任命することの2つの手続きが必要である。このうち②については、市町村長は、被害防止対策への積極的な参加が見込まれる者のうちから実施隊員を指名・任命することとなっている。

5 総まとめ

今般の法改正を受け、農林水産省では、関係省庁と連携し、改正法の施行日を定める政令、技能講習の適用除外に係る一定の要件を定める省令（内閣府・農林水産省・環境省の共同命令）を制定するほか、農林水産大臣が定める基本指針の改正を行うこととしており、今後、改正法に係る説明会を開催し、これらの内容も含めて周知を図る予定である。

なお、鳥獣被害の状況や被害防止マニュアル等について、ホームページによる情報提供を行っているのので、被害防止対策の参考としていただきたい。（<http://www.maff.go.jp/~/seisan/tyozyu/higai/index.html>）

フォーラム

はじめに〜豊郷町の紹介〜

豊郷町は滋賀県の東部、国宝彦根城で知られる彦根市に隣接した人口約7、500人、面積7・8平方キロの町である。湖東平野の中央に位置し、昔から稲作が盛んで、現在も



面積の半分以上が水田である。一方で町の中央を旧中山道が通る交通の要衝であり、近江商人の発祥地のひとつとしても知られている(注1)。近年この町を一躍有名にしたのが豊郷小学校校舎の保存問題。校舎を解体して新校舎を建設するという町の方針をめぐって町を二分する事態となり、新聞やテレビの報道でも何度となく取り上げられたので、記憶している方も多いだろう。



△豊郷小学校旧校舎：竣工当時、コンクリート造の校舎は全国で2例目。その偉容は「東洋一の白亜の殿堂」と称された。



△400人以上収容できる講堂も、体育館とは別に建てられた(2階席から撮影)

「当時としてはありえんほどの破格の校舎」と清水さんがおっしゃる

白亜の殿堂
〜破格の旧小学校校舎〜

古川氏の私財の3分の2、現在の貨幣価値で数十億円以上を投じて建設された旧校舎は、あらゆる細部で郷里の子供の成長を思う配慮の尽くされたものとなった。当時は珍しかったプールをはじめ、体育館やテ

現地レポート

町村独自のまちづくり

滋賀県豊郷町における
アニメコンテンツを活かした
まちおこし

滋賀県 豊郷町

とよさとちよう

よつに、1937(昭和12)年5月30日に竣工した旧校舎は、町の中心部に広大な敷地と偉容を誇って建っている。両翼約120mのコンクリート造の地上2階建(中央部は3階建)。

旧校舎の建設は、豊郷出身で伊藤忠兵衛氏の丁稚から頭角を現して丸紅の専務まで上り詰めた古川鉄治郎氏が、当時の村長に「豊郷小学校の敷地と建物一切を寄付したい」と申し出たことで実現した。

フォーラム

二スコートを整備。電話そのものが珍しかった時代に校舎内の内線電話も装備された。トイレも水洗。セントラルヒーティングも完備されていた。

旧校舎の設計は近江八幡のヴォーリス建築事務所に依頼した。ヴォーリス氏自身も、キリスト教伝道のために来日し、近江八幡に根を下ろして医療や教育事業に取り組んだ社会事業家だった(注2)ので、互いに校舎建築に対する理念を共有できただろう。

その証の1つが階段の手すりに飾られたウサギとカメの像である。イソップ物語の寓話にちなみ、1階を並んでスタートするウサギとカメ、踊り場で昼寝するウサギ、追い越して先にゴールするカメが、それぞれ像として手すりに飾られている。古川氏がヴォーリス氏に語った「子供の頃、学校の先生からイソップ物語



▷竣工時の像は戦時中に供出されたが、戦後、建築時の現場監督だった神谷新一氏(後の竹中工務店副社長)が当時の設計図を探し出して自費で復元した。

のウサギとカメの話のように『誰も見ていないところでも努力し、ゆっくりでも良いから前に進んでいきなさい』と教えられ、そうすることで校舎を寄付できるまでになった」という思い出話を、ヴォーリス氏が具現化したものである。

保存をめぐる混乱から改修、そしてアニメの舞台

竣工以来、町のシンボルとして町民に愛された旧校舎だったが、2000(平成12)年に校舎を解体して新校舎を建設するという町の方針が示されると、町を二分する議論が巻き起こった。結局、校舎は別の場所に新築し、旧校舎は保存することとなり、教育委員会、町立図書館、子育て支援センターなどの入居する複合施設として再出発することになった。

それに合わせて改修工事が行われ、2009(平成21)年5月30日、旧校舎72回目の竣工記念日に、リニューアルオープンの式典が挙行された。ところがその場に、あまり見慣れない集団がいた。DVDと見比べながら校舎の写真撮る人、大きな荷物を持った明らかに遠方から来たと思われる人たち……

実は竣工式の前月、4月に放送が

始まったアニメ「けいおん!」に、豊郷小学校の旧校舎が登場していたのである。アニメ「けいおん!」は、女子高の軽音楽部を舞台に高校生の青春を描いたアニメだが、主人公たちの通う高校として描かれた校舎の外観や内装が旧校舎そっくりだった。これに気づいたファンが、旧校舎内部の見学が可能になる竣工式典の日

に駆けつけたのである。実は、清水さんは4月中旬に旧校舎がアニメの舞台となっていることを知っていた。「旧校舎がアニメに出ているようだ」と連絡があったので実際に放送を確認してみると、「たしかによう似てる。どう考えてもうちゃ」と。ただ、その時は「へえ〜」で終わった。

通常なら井戸端会議の話題として収束するところだが、清水さんの友人が聖地巡礼に詳しくなったことから、まちおこしの物語は大きく展開する。アニメの舞台となったことを活かしてまちおこしに成功した例では、埼玉県鷲宮町(現在は久喜市に合併)の取り組みが先発していたが、その友人は、「鷲宮のアニメと旧校舎の出でくるアニメは同じ会社で作っている。ひよっとすると豊郷町も鷲宮のように人が来るかもしれない。」と助言。「可能性はゼロではない。」

ダメで元々、アカンかったらやめたら工んや、と始めた(清水さん)。さっそく鷲宮町のまちおこしを扱った報道や研究論文を調べあげ、レポートを作成。商工会や観光協会など関係各所に「豊郷でもこんなにすごいことが起ころうとしている。ぜひ取り組んだ方がいい」と持ち込んだ。レポートは町長にも見せに行った。町長も乗り気になった。

とはいえ、問題は誰が実働部隊としてまちおこしを切り盛りするのか。議論の結果、清水さんを含め、役場、商工会、観光協会等から有志10人程が集い、後に「けいおん!でまちおこし実行委員会」と名づけられるグループを結成することになった。

ファンとの交流を通じて「聖地」として発展

5月の竣工式にファンが訪れることを見越した実行委員会は、会場にうどんの屋台を出すことにした。目的は2つ。1つは、会場近くに食事をするところがないので、せめてうどんでも提供しようというもの。もう1つは、ファンのニーズを探るため、うどんを食べに来たファンに「ここに来て何がしたいんや」と率直に尋ねた。ファンからは「アニメに主

フォーラム

◀喫茶コーナー。かつては図書室として利用されていた



人公が校舎内でお茶を飲むシーンがある。自分も同じようにお茶を飲みたい」という声が多かった。

実行委員会ではさっそく実現可能性を検討。アニメのシーンで描かれた同じ部屋というわけにはいかなかったが、旧校舎内に厨房設備のある広いスペースがあるのを見つけ、翌月には喫茶コーナーをオープンした。

最初は10人の実行委員会メンバーが交代で不定期に営業していたが、やがて謝礼が出せるほどの収入が入るようになり、毎週末営業できるようになった。現在ではファンとの情報交換、ファン同士の交流の場としてすっかり定着している。

アニメファンの聖地として認知さ

れるも一つ一つのきっかけがある。

あるアニメファンのグループが、アニメのオープニング映像の再現をしようと来た。「コスプレ」と呼ばれるアニメキャラクターそっくりの扮装をして旧校舎の外で同じアングルでビデオ撮影したいのだという。旧校舎を管理する教育委員会は、初めは「いったい何の話や？」と驚いた様子だったが、「別に何も壊したりせえへんなら、まあ、使いなあ」と大らかに対応。その後、完成した再現映像がインターネット上で公開されると話題を呼び、アニメの舞台としての豊郷小学校旧校舎がさらに注目を浴びることとなり、ついにはアニメファンの「聖地」として認知されるようになった。清水さんは「ファンからすれば、ここは自分たちの存在を受け入れてくれる場所かもしれないと希望をもったのでは」と分析し、「うちからしても、何にも邪魔にならないということもあり、別にいいかという感覚だった」と話す。

では、市民のファンに対する反応はどうだったか。「いい年をした大人がカメラをぶら下げて駅からぞろぞろと歩いている。何事かと市民は驚いただろう」(清水さん)。

しかし、ファンが大勢詰めかけたからといって何も事件は起こらな

かった。そのうちファンの存在が気にならなくなり始めたという。それどころか「文句つけるところがないほど、ファンのマナーは実にいい」と清水さんは話す。

旧校舎には子育て支援センターも入居しており、支援センターのスタッフや子供を連れてくる保護者も、最初はファンの存在を少し気持ち悪がった。しかし、廊下ですれ違いうたびに挨拶を欠かさないファンに、「この子ら、実は安全や」という認識が広まったという。

旧校舎の掃除にやってくるファンもいる。バケツや雑巾を持って「掃除させてもらっていいですか」と



▷旧校舎の1Fは、図書館や子育て支援センターなど町の教育・福祉スペースとしても活用されている

やって来たときには、教育委員会も驚いたというが、現在では旧校舎内の廊下のワックスがけまでファンがやってくれるそうだ。



△見学ガイドブックもファンの手づくりだが、プロ並みの出来栄

喫茶コーナー脇のアニメグッズのコレクションもすべてファンからの寄贈。キャラクターグッズなど小物から等身大のパネル、劇中で主人公が使っているものと同じ楽器まで軽く1000点は超えているという。「ファンにとっては、自分が持っているものがここにあってほしいのかな?」と清水さんは分析する。

一年半前にこのコレクションの一部が盗難に遭い、すわ熱狂的なファンによる仕業かとマスコミは報道したが、実は常習の事務所荒らしの犯行だった。むしろファンからは見舞金が届けられたのだとか。

フォーラム

旧校舎外でのファンと地元商店との交流も徐々に広がりつつある。

旧中山道沿いに古くからあるうどん店。一見ふつうのうどん店だが、違うのは、壁の至るところにアニメキャラクターのポスターが貼られていること。ご主人がファンの求めに応じてポスターを貼らせたところ、ファンから「聖地」として認知され、「巡礼」の対象となったようだ。夕方、旧校舎が閉館した後のファンの集いの場にもなっており、ご主人の誕生会をファンが開くなど、心あたたまるイベントも生まれている。

こうしたファンの「巡礼」は、「巡礼地」での購買を伴うため、少なからざる経済効果も生んでいる。

ファンをつなぎとめるための戦略

現在、旧校舎への町外から来訪者数は、週末には1日平均200〜300人、年間では5万人に達する。そしてその多くがリピーターである。

清水さんは、リピーターが多い背景として、旧校舎がアニメファン同士の交流の場になっている点を指摘する。「アニメという共通の話題があるので、アニメファン同士で親しくなりやすい。やがて旧校舎を見に来るためではなく、ここに誰か

に会うためにやって来るようになる」「校舎内でみんなでワイワイ絵を描いたり、ギターを弾いたり…まるで高校の部活動の雰囲気そのもの」と清水さんは語る。

しかしこれだけが背景ではない。実はもう一つ、ファンをリピーターとしてつなぎとめるために仕掛けた戦略が当たった側面もある。

旧校舎3階の音楽室。アニメで主人公たちが集う軽音楽部の部室として描かれ、ファンにとっては旧校舎内で最も重要な意味をもつ教室だが、教室内の黒板は、ファンが自由に落書きできるように開放されている。竣工式典の日、2階のすべての教室の黒板に落書きが残されていた。

「落書きすると言ってもファンは絶対にどこかに落書きするだろう。ならば、書いてもよい場所を作ろう。」

そこで、3階の音楽室の黒板なら落書きをしても良いが、他には書かないように、とルール化することにした。そして、黒板の落書きを毎日撮影し、「今日はこんな落書きがあった」とインターネットのブログを通じて紹介することも始めた。

実はここに戦略が隠れていた。「自分が書いた落書きがブログで紹介され、ファンにとっては旧校舎を訪れた記念になる。そして黒板に落書き

をすること、

他のファンの書いた落書きを見に来ることそのものが、繰り返し旧校舎を訪れる動機になる」と清水さんは解説する。実はこの手法、前述の鷲宮の事例を分析する中で思いついたのだという。

ちなみに施設側では黒板の管理はしていない。「誰かが来てチョークを補充していったって、汚いと思ったら誰かが消していく。まったくの自治」(清水さん)。黒板下に落ちたチョークの粉も、いつの間にか雑巾がけされているようだ。

成功の背景とは

現地を取材して筆者がまず感じたのは、豊郷町の懐の深さである。

一般的な傾向として、アニメファンに対してとかく偏見の目を向けがちだが、豊郷町の対応はそのような



△町内のガソリンスタンドの事務所にも壁一面にファンから贈られたアニメの関連グッズが貼られ、「巡礼地」として認知されている。取材時も4人のファンが談笑しており、なかには遠く群馬からやってきたファンもいた

偏見とはまったく無縁であり、むしろファンを信頼した。「コスプレ」による撮影、指定した場所での落書きの容認など、行政としてそう易々と判断できるものでもないだろう。それはポスターを貼らせたりキャラクターグッズを置かせた町内の店舗にも言える。こうした懐の深さとファンへの信頼にファン自身も応えようとした結果が、旧校舎の掃除、黒板の管理などのファンによる「自治」、店主との交流につながっているのではないだろうか。

同時に、関係者の行動の機敏さと戦略性にも驚かされる。

旧校舎がアニメで取り上げられた

フォーラム

▷滋賀県が発祥とされる児童の飛び出し注意看板も、アニメキャラクターに置き換えたものが設置されている



これからの最大の課題は、やはりブームの継続性を見極めと終了後に

おわりに
〜将来に向けての戦略

こうした懐の深さとしたたかさ、そして機敏さに、豊郷町を発祥地のひとつとする近江商人の経営哲学に通じるものを感じるの筆者だけだろうか。

ことを知るや、地域活性化の素材として認識し、既存例を分析したうえで戦略を立て、実行グループを作った。しかもそれを約1ヶ月という短期間で進めた機敏さは高く評価される。そして、イベント時に屋台を出すことでファンのニーズを自然に聞き取る態勢を整えたり、黒板の落書きをリピーター確保につなげたりといったしたたかさにも舌を巻く。

1 現在の伊藤忠・丸紅の創業者の伊藤忠兵衛氏、戦前にヨーロッパの社交界で一世を風靡し、藤田嗣治のパトロンとしても有名な薩摩治郎八氏(ハロン薩摩)の出身地である。

2 ヴォーリス氏は近江兄弟社を設立。メンソレータムの販売権を取得して日本での普及に努めた人物でもあり、得た収益は惜しみなく社会事業に充てられた。

3 「アニメを活かした町おこし」地元とファンの交流を成功に導いたものとは〜(「町村週報2671号」を参照)。

向けた対応だろう。清水さんは「ブームを終わらせないように仕掛け続けるのはいくが、5年も10年も続かないことは明らか。アニメファンから町のファンになってもらいたい。」として、現在は、伊藤忠兵衛記念館(伊藤忠創業者の生家を活用した資料館)など豊郷町の従来の観光地にも目を向けてもらおうと仕掛けづくりを考えているという。そのためには、アニメファンと住民との交流の機会を、商店主だけでなくどこまで広げていけるかがカギになるだろう。

古川鉄治郎氏の故郷の子供たちへの熱い思いが込められた「白亜の殿堂」は、新校舎の建設により教育の場としての役割は終えたが、アニメの舞台として取り上げられたのをきっかけに、ファンの交流の場、まちおこしの起爆剤として、新たな歴史を刻もうとしている。今後の展開に注目したい。

清水さんは「ブームを終わらせないように仕掛け続けるのはいくが、5年も10年も続かないことは明らか。アニメファンから町のファンになってもらいたい。」として、現在は、伊藤忠兵衛記念館(伊藤忠創業者の生家を活用した資料館)など豊郷町の従来の観光地にも目を向けてもらおうと仕掛けづくりを考えているという。そのためには、アニメファンと住民との交流の機会を、商店主だけでなくどこまで広げていけるかがカギになるだろう。

町村専用ページ「町村.com」をご覧になっていますか

● <http://www.zck.or.jp/choson/> ●

全国町村会では、全国の町村との連携を密にし、町村長と町村職員のみなさんの情報収集の利便性を向上させるため、町村専用ページ「町村.com」を開設しています。

「町村.com」では、全国町村会の活動状況や中央省庁などの政策情報を随時ご提供しているほか、全国の町村の先進的な取り組み事例をはじめ、各種統計資料など様々なデータも公表しています。

私どもは、「町村.com」が町村関係者にとって真に役立つホームページとなることを目指し、これからも充実をはかっていきたいと考えていますので、ご覧になったご感想・ご意見を、下記のメールアドレスにお寄せください。

kouhou@zck.or.jp



- ・「町村.com」は、町村関係者の方だけがご利用いただける専用ページです。ご覧になる際は、所定のパスワードが必要になります。
- ・ユーザー名とパスワードは、各町村にお知らせ済み(平成18年9月27日付)ですが、お問い合わせは、全国町村会広報部までメール(kouhou@zck.or.jp)をお願いいたします。

情 報

トップマネジメントセミナー
「地域で支える医療」ご案内

全国市町村国際文化研修所（JIAM）では、「地域で支える医療」と題し、市区町村長、市区町村議会議員及びNPOや住民組織の代表者等を対象としたトップマネジメントセミナーを開催します（8月9日～10日）。

今回のセミナーは、自治医科大学地域医療学センター長 梶井 英治氏を全体アドバイザーにお迎えし、同センター助教 神田 健史氏のコーディネートによる兵庫県西脇市と群馬県渋川市の事例報告の後、参加者の皆さんに「住民との協働アクションプラン」作りを取り組んでいただきます。

記

- 1、日程
平成24年8月9日(木)～10日(金)
1泊2日

2、場所
全国市町村国際文化研修所（JIAM）
（滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号）

3、募集人数

24人（市区町村長等、市区町村議会議員、NPOや住民組織もしくは地域医療機関の代表者等各8名を予定）

4、経費

7、300円

5、申込期限

6月21日(木)まで

6、申込方法

JIAMホームページ (<http://www.jiam.jp>) から「受講申込書」及び「申込時アンケート」をダウンロードし、必要事項を記載の上、JIAMまでFAX（FAX：077-578-5906）にてお申し込みください。

7、問い合わせ先

（財）全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所（JIAM）
教務部
〒520-10106
滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号
TEL：077-578-5932
FAX：077-578-5906
E-mail：kenshu@jiam.jp

新刊紹介

今、若者が惹かれるローカルの魅力とは？
『TURNS(ターンス)』
<http://turnsjp> 定価980円(税込)

6月に創刊された雑誌『TURNS(ターンス)』は「地域と人を結ぶ」がコンセプト。編集長の坂本二郎氏はこう話す。「昨年の震災を機に都会から地方へ移住をした人もいますし、そこまでいなくても『自分が本来生きていくべき場所は何処?』といった想いをいだくようになった人は多いと思います。かつての田舎暮らしブームと違い、若い就農希望者も増えています。都会で働いているときは周囲に貢献できていたのかどうかすら実感することができなかったが、地方のコミュニティで、自分の個性や存在意義を再発見できたという人も。田舎で暮らしたいというより、納得できる、自分になれる場所を探しているんです」

『TURNS』では毎号、魅力的な場所と人、文化、仕事、暮らしに「コミュニティ」や地域プロジェクトの情報を発信。物質に頼らない暮らしの豊かさとは？それが実現できるのは何処?といったテーマを、日本のさまざまな地域にスポットを当てながら毎号探っていきます。

問い合わせ先

（株）第一プロダクツ『TURNS』営業部
電話 03-133222-1973



<http://turnsjp>



何かと面倒な相続手続き、
お手伝いいたします。

遺産整理業務

[わかち愛]

※遺産整理業務には所定の手数料がかかります。※遺産整理手続き完了時(例)遺産額2億円の場合、遺産整理業務手数料2,887,500円(消費税込み)。(平成17年10月1日現在)



お問い合わせは ☎0120-349-250 (ご利用時間/平日・土・日 9:00~17:00 (祝日等を除く) (回線がつかまりましたら 日付を押してください。)



<http://www.smtb.jp> 三井住友信託銀行 検索

わが町 田尻町

大阪府田尻町長 原 明 美



昨年の3月11日、14時46分に発生した東日本大震災とそれに伴い発生した大津波。

その日私は、発足したばかりの田尻町文化協会が主催した展示会の後片づけを終え、帰宅しテレビのスイッチを入れたとたん、信じられない光景を目の当たりにすることとなりました。死者・行方不明者が1万9千人弱という甚大な被害の始まりでした。現在もこの震災に起因する原発をめぐる問題、今なお続く余震、そしていまだ収束のめどが見えない厳しい現実を見るにつれ、胸が締め付けられる思いであります。あらためて被災された方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、今後も被災地のことを忘れることなく引き続き支援に取り組んでまいりたいと思っております。この大震災以降、海に面した本町におきましても、災害の対応の在り方についての議論を今まで以上

に重ねているところでございます。

さて、私は昨年12月に町長に就任いたしました。議員経験も行政経験もございません。PTA連絡協議会の会長や、文化協会を立ち上げ初代会長に就任するなど、常に外から行政に係わってきました。しかし、人生何が起るかわかりません。今は逆に行政の中心に立っています。立場は変われども、女性の視点を活かした「未来へ向かう田尻町へ」をスローガンに、行政を変えていきたいと思っています。例えば防災も女性の立場から見れば、違う発想が生まれてくるはずですよ。今後様々な角度、視点から見直しを進めてまいりたいと考えております。

少し田尻町を紹介させていただきます。本町は大阪府の南部に位置し、大阪湾に面した本土部分と対岸に位置する関西国際空港の一部からなり、面積は5・24km²、人口約8300人、降雨量が少なく温暖な瀬戸内式気候で、人も穏やかでとても暮らしやすい小さな町です。

田尻町の南をとり西側から大阪湾に注ぐ樫井川の右岸には条里制の跡があり、古くから開発が進んでいた土地柄であることがうかがえます。

さて、近代の田尻町を支えた産業の柱は、タマネギ生産と紡績業です。

明治18年(1885年)ごろ本町で始まったタマネギ栽培は、試行錯誤をくり返しながら広がり、明治36年(1903年)に大阪で開催された第5回国内勧業博覧会には本町から多数出品され、高く評価されるまじりになりました。田尻町はわが国のタマネギ生産の中心地のひとつとなり、全国的なブランドとして展開していきます。大正2年(1913年)には、本町のタマネギ栽培に貢献した先人を称えるための「顕彰碑」(泉州球葱栽培之祖碑)が、春日神社の裏地に建てられています。

大正時代に入ると、紡績業が著しく発展しました。「綿の王」と呼ばれ、関西繊維業界の中枢を担った大阪合同紡績社長谷口房蔵氏は、大正3年(1914年)、郷土である本町に吉見紡織株式会社を設立します。また大正11年(1922年)には工場に

近接して別邸を建てました。洋館と和館が棟続きのめずらしい建物で、大阪府指定有形文化財に選ばれています。現在は、田尻歴史館(愛称:愛らんどハウス)として町が所有し、歴史文化の啓発と継承に取り組み、平成18年には指定管理者制度を導入し、館内のレストランでは多くの人々に往時の栄華を味わっていただいております。

そして、平成6年(1994年)9月に関西国際空港が開港し、平成9年(1997年)には、国際交流基金金関西国際センターも開設され、田尻町は世界に拓く町となりました。また、海に拓く町として、たじり海洋交流センター(田尻漁港)を拠点とした観光漁業や日曜朝市は、たくさんの人でにぎわっております。

小さな町ですが、急激に変化する経済、社会情勢に対応し、タマネギ、紡績、空港など時代とともに町は発展してきました。

来年、平成25年(2013年)5月には町制施行60周年を迎えます。今後も「ひとが輝き、安心、温もり、魅力あるまち・たじり」のキャッチフレーズのもと、これまでの町の発展の歩みをしっかりと受け継ぎつつ、住民との協働のもと、さらなる発展を目指し取り組んでまいります。